

山梨県作業療法士会ニュース



やまなし

第99号 2018年11月21日（年3回発行）

- 1p 『作業療法の日』
- 3p 『第11回山梨県作業療法学会』
- 4p 『高齢者・障害者向けテレビリモコンの貸与事業の紹介』
- 5p 『作業療法定義変更』
- 6p 理事会だより 7p 各種申請書のおしらせ 8p 編集後記

「作業療法の日」 普及啓発活動について

山梨県作業療法士会社会局事業部
湯村温泉病院 小林真紀子

日本作業療法協会は毎年9月25日を「作業療法の日」として普及啓発活動を行っています。今年度山梨県作業療法士会（以下、県士会）では、一昨年より地域リハビリテーション委員会で行ってきた作業療法の普及啓発活動を受け継ぎ、社会局事業部が主催し行いました。当日は連休中日の晴天で、活動を行った甲府駅南口・ソライチ会場（ペDESTリアンデッキ）では、私たち作業療法士会のブース以外にも地域の特産物や貴金属、ハンドマッサージなどのマーケットが開かれ、また北口のよっちゃばれ広場でもフェスが開催されており、駅構内は家族連れや旅行客も多くみられました。

活動内容は、「作業療法を地域住民に知ってもらおう～作業療法士が地域における資源として活用できることをPRする～」をテーマとして、南口でティッシュ配りやアンケート調査、ソライチ会場にて生活に役立つ道具や自助具の展示、作業療法の紹介資料や認知症のパンフレットの配布、生活の中での困りごと相談を行いました。





活動に参加したのは、社会局事業部及び県士会より協力の得られた総勢 16 名でした。地域リハビリテーション委員会や認知症対策推進委員会、福祉用具委員会のメンバーは、これまでの経験を活かしティッシュ配りやアンケートでも、とても自然に声をかけているように見えました。初めて参加した私は、どのように声をかけようか、足を止めてくれた人にはうまく話せるだろうかとティッシュを手に持ちキョロキョロと緊張している始末でした。今回は全員県士会のビブスを着用していま

したが、日頃ケーシーを着て作業療法士だと暗黙で分かる環境の中にいるためか「こんにちは。作業療法士です。ティッシュいかがですか？」と声をかけることも、足を止めていただき話を聞くことも、とても難しいと痛感しました。

アンケートは、年齢や役割、生活状況、作業療法を知っているか、困りごとはあるかなどを項目とし、10 名の方に調査することができました。年齢は 50～70 代が大半で女性が 7 割、現役で働いている方も無職の方もいました。『困っていることは？』では自身の運動・身体が 8 割を占め、神経痛や視力低下、長距離が歩けない、起き上がりにくい、装具を着用しているため靴が履きにくいなど具体的に聞かれました。『困ったときの相談先



バレーンアートで、お子様連れの家族とも交流しました。

は？』は“ある”が 7 割を占め、今回アンケートに答えていただいた方々は社協や役場、医師やヘルパー、職場の同僚、福祉用具貸与事業所、娘などに相談できていることがわかりました。『生活環境での困りごと



は？』は“ある”が 5 割で、片付かない、電球の交換が困難、外出が困難、車がなくて不便などがあがり、『これらを相談できる人は？』は“なし”及び“無回答”が 6 割を占めていました。『作業療法を知っているか？』は“はい”が 7 割で、身内が入院中作業療法を受けたことがある、や元職場に作業療法士がいた、他県の方からは福祉が進んだ地区に住んでいるから知っているなどがあがっていました。アンケート結果から気になったのは、自身の身体や運動については相談していても、生活環境の困りごとは相談することなく放置されていることでした。

「作業療法の日」普及啓発活動に参加し、介護予防や地域包括ケアシステムなど地域でのリハ職の活躍が期待されるなか、地域住民と交流することで改めて作業療法の広がりや必要性を感じることができました。地域リハビリテーション委員会や認知症対策推進委員会、福祉用具委員会のメンバーの方と協力できたこと、それぞれの委員会の活動を知る機会になったこと、作業療法士同士顔の見える関係を築けたことなど有意義な活動だったと思われました。

集え！第11回山梨県作業療法学術大会

第11回山梨県作業療法学術大会 大会長 関谷宏美

外の景色が秋の彩りからクリスマスモードへと切りかわる12月初旬、山梨英和大学において第11回山梨県作業療法学術大会を開催します。「紡ぐ～その人らしさをともに～」のテーマのもと、40名の運営委員が毎月集まって準備を進めています。一人ひとりの作業療法士とクライアントとの関係の中で紡がれてきた「山梨の作業療法」、そして、小さな県ならではの顔の見える関係性の中で先輩から後輩へ紡がれてきた「山梨の作業療法」、さらに、近年、地域住民や多職種との間で紡がれている「山梨の作業療法」、その強みを共有し、そしてこれからの発展に向けて新たな課題を議論します。子供から高齢者まで地域住民が共生していく社会の構築に向けて、作業療法はさらに幅広い活躍が求められています。本学術大会では、在宅の一人暮らしの方の看取りを支援している小笠原内科・岐阜在宅ケアクリニックの小笠原文雄氏による「なんとめでたいご臨終」の特別講演、「QOLからQODまで、作業療法士にできること」と題したシンポジウムを始め、多領域からの教育講座、一般演題、機器展示、書籍販売と充実した内容です。多くの皆様のご参加お待ちしております。

【日時】2018年12月9日（日）9:00～16:30（受付8:30）

【会場】山梨英和大学

※詳細は各個人に配信されたメールや山梨県作業療法士会ホームページをご覧ください



高齢者・障害者向けテレビリモコン貸与事業のご案内

山梨県作業療法士会福祉用具委員会

自由に外に出られない高齢者・障害者にとって、テレビは、娯楽や社会の情報を得る手段として広く活用されています。しかし、今のテレビリモコンは、多機能となり、ボタン操作が複雑化しています。福祉用具委員会では、自分でテレビを操作し、QOLを向上するために開発された2つのリモコンの貸与事業を行っています。これらを活用して高齢者・障害者の主体性を引き出す支援を試してみませんか。

レッツ・リモコン ST

一般的なリモコンが操作しづらい
高齢者が使いやすいリモコン



- 押しやすくクリック感のあるボタン
- 押したことを音と光でお知らせ

レッツ・リモコン AD

手指機能に障害のある方が外部スイッチで
操作するリモコン



- 1 スイッチ・オートスキャン方式なので身体状況に応じた入力スイッチで操作
- 呼び出しコールと連動

貸与対象製品：レッツ・リモコン ST 3台 レッツ・リモコン AD 3台

貸与期間：1ヶ月

貸与対象者：山梨県作業療法士会会員（患者さん・利用者さんに貸し出し可能）

問い合わせ：関谷宏美（甲州リハビリテーション病院 TEL:055-262-3120）

※貸与事業利用後、簡単な報告書を書いていただきます。



日本作業療法士協会 作業療法の定義が33年ぶりに改定

会員の皆様はご存知の通り、日本作業療法士協会は、第二次作業療法5か年戦略のなかに作業療法の定義改定を掲げ、平成30年5月25日に開かれた総会にて改定案が可決されました。

1985年 日本作業療法士協会 作業療法の定義

作業療法とは、身体又は精神に障害のある者、またはそれが予測される者に対し、その主体的な生活の獲得を図るため、諸機能の回復、維持及び開発を促す作業活動を用いて、治療、指導及び援助を行うことをいう。

改定後 日本作業療法士協会 作業療法の定義

作業療法は、人々の健康と幸福を促進するために、医療、保健、福祉、教育、職業などの領域で行われる、作業に焦点を当てた治療、指導、援助である。作業とは、対象となる人々にとって目的や価値を持つ生活行為を指す。

(註釈)

- ・作業療法は「人は作業を通して健康や幸福になる」という基本理念と学術的根拠に基づいて行われる。
- ・作業療法の対象となる人々とは、身体、精神、発達、高齢期の障害や、環境の不適応により、日々の作業に困難が生じている、またはそれが予測される人や集団を指す。
- ・作業には、日常生活活動、家事、仕事、趣味、遊び、対人交流、休養など、人が営む生活行為と、それを行うのに必要な心身の活動が含まれる。
- ・作業には、人々ができるようになりたいこと、できる必要があること、できることが期待されていることなど、個別的な目的や価値が含まれる。
- ・作業に焦点を当てた実践には、心身機能の回復、維持、あるいは低下を予防する手段としての作業の利用と、その作業自体を練習し、できるようにしていくという目的としての作業の利用、およびこれらを達成するための環境への働きかけが含まれる。

日本作業療法士協会では、多様化する作業療法の職能を十分表現するために約5年間検討を重ね、今回の改定案を取りまとめたとの事です。

今後、さらに様々な場面で必要とされる作業療法を提供できるように、今、目の前にいらっしゃる対象者の方、これから必要になるかも知れない方々のためにも、再度、山梨県作業療法士会全体でも周知できるよう、今回の広報誌に掲載をさせて頂きました。

理事会だより

一般社団法人山梨県作業療法士会 平成30年6月期 理事会議事録

日時：平成30年6月27日(水)
場所：春日居サイバーナイフ・リハビリ病院 作業療法室
出席者：山本、広田、古屋、三瀬、磯野、長坂、中島、野上、濱田、
関谷、米山、佐尾、有泉、宮尾、松田：15名

1. 副会長(広田、古屋、三瀬)
 - 1) 今年度、実習者指導者に関する研修会を全国15箇所で開催予定
 - 2) 介護ロボットについて厚生労働省からOT協会に委託あり一各県でチームを構成し開発を促進
2. 事務局(磯野)
 - 1) 平成30年度第1回中北地域リハビリテーション連絡会に三瀬副会長出席予定
 - 2) 平成30年度第1回峡東地域リハビリテーション広域支援センター連絡会連絡委員の派遣について山本会長出席予定

<管理部>
1) 平成30年6月19日(火)事務局移転、役員選任登記完了
2) 会員数：537名(納入者537名 平成30年6月27日現在)

<福利厚生部>
1) 平成30年6月14日(木)に新人転入者歓迎会を常盤ホテルにて開催(参加者154名)
2) 秋の親睦会は平成30年11月22日(木)に開催予定

3. 特設委員会(関谷、米山、松田、宮尾)

<生活行為向上マネジメント推進委員会>
1) 平成30年5月12日(土)第8回全国推進会議が開催され米山理事、丸山暁参加

<認知症対策推進委員会>
1) 平成30年6月21日(木)に中央市田富地区 認知症フェスティバル打ち合わせ小ケア会議出席

<その他>
1) 会員メールシステムについて7月に案内文発送、7・8月は併用期間とし10月から完全移行の予定

一般社団法人山梨県作業療法士会 平成30年7月期 理事会議事録

日時：平成30年7月25日(水)
場所：春日居サイバーナイフ・リハビリ病院 作業療法室
出席者：山本、広田、古屋、三瀬、磯野、長坂、中島、野上、濱田、
関谷、米山、有泉、宮尾、松田：14名

1. 副会長(広田、古屋、三瀬)
 - 1) 平成30年7月24日(火)介護実習普及センターにて開催された運営会議に出席
2. 事務局(磯野)
<管理部>
 - 1) メールシステムによる発送を平成30年8月より実施予定(郵送とメールシステム併用)各部、委員会のアカウント作成も可能
 - 2) 会員数：575名(納入者545名 平成30年7月25日現在)
3. 広報局(中島)
<企画編集部>
 - 1) 平成30年7月25日(水)に第98号広報誌の発送作業を実施
4. 社会局(濱田)
<事業部>
 - 1) 平成30年7月10日(火)地域リハビリテーション会議に参加
5. 常設委員会(関谷)
<福祉用具委員会>
 - 1) 平成30年7月6日(金)「コミュニケーション支援について」研修会を開催 参加者：35名
6. 特設委員会(関谷、米山、松田、宮尾)
<生活行為向上マネジメント推進委員会>
 - 1) 平成30年7月19日(木)「事例検討会に向けた書き方研修会」を開催 参加者：16名(会員証忘れ2人)

<認知症対策推進委員会>
1) 平成30年7月25日(水)甲府市ボランティア養成講座開催

7. 山梨県リハビリテーション専門職団体協議会(磯野、長坂)
<地域支援事業等推進委員会>
 - 1) 平成30年7月21日(土)～22日(日)地域ケア会議および介護予防、日常生活支援総合事業に関する人材育成研修会に出席

<訪問リハビリテーション委員会>

1) 平成30年7月17日(火)に第2回委員会を開催

8. その他

<三役会議>

1) 山梨県作業療法士会より被災地へお見舞いのメールを送信済み。支援金など今後検討

一般社団法人山梨県作業療法士会 平成30年8月期 理事会議事録

日時：平成30年8月21日(火)
場所：春日居サイバーナイフ・リハビリ病院 作業療法室
出席者：山本、広田、古屋、三瀬、磯野、野上、濱田、関谷、米山、
佐尾、宮尾、松田：12名

1. 副会長(広田、古屋、三瀬)
 - 1) 平成30年7月28日(土)～29日(日)に47都道府県委員会の予定であったが台風の影響により延期(振替10月開催予定)
2. 事務局(磯野)
<管理部>
 - 1) 会員数：575名(納入者546名 平成30年8月21日現在)
3. 社会局(濱田)
<事業部>
 - 1) 「作業療法の日」について平成30年8月8日(水)に会議開催
4. 特設委員会(関谷、米山、松田、宮尾)
<認知症対策推進委員会>
 - 1) 認知症スタンプラリー大会の準備状況：ブース協力50名(言語聴覚士3名)、作業療法士会員ボランティア9名、作業療法学生ボランティア19名、県より2名参加
 - 2) 峡南家族会に向け宮尾理事が講義を開催し保健師向けに講演依頼あり
5. 山梨県リハビリテーション専門職団体協議会(磯野、長坂)
<地域支援事業等推進委員会>
 - 1) 平成30年7月31日(火)地域ケア会議推進メンバー養成研修会実施
 - 2) 平成30年8月22日(水)介護予防アドバイザー養成研修会

一般社団法人山梨県作業療法士会 平成30年9月期 理事会議事録

日時：平成30年9月19日(水)
場所：春日居サイバーナイフ・リハビリ病院 作業療法室
出席者：山本、広田、古屋、三瀬、磯野、長坂、中島、野上、関谷、
米山、佐尾、有泉、宮尾、松田、佐田：15名

1. 事務局
1) 山梨県社会福祉協議会より、「平成30年度介護職場人材育成研修」の開催に伴う講師依頼あり
2) 山梨県福祉保健部健康長寿推進課より、「高校生一日リハビリテーション体験」協力依頼あり

<管理部>
1) 会員数：575名(納入者546名 平成30年9月18日現在)

2. 常設委員会(関谷、松田)
<福祉用具委員会>
 - 1) 平成30年9月16日(日) 作業療法の日イベント2名参加
3. 特設委員会(関谷、米山、松田、宮尾)
<地域リハビリテーション委員会>
 - 1) 「作業療法の日」会員6名が参加予定

<生活行為向上マネジメント推進委員会>
1) 平成30年8月24日(金)「事例登録に向けた書き方研修会」開催 参加者：8名(カード忘れ1名)

<認知症対策推進委員会>
1) 平成30年9月7日(金)スタンプラリー大会決起会 ブース協力者16名参加 サポーター養成講座実施
2) 甲府市在宅医療・介護連携推進会議での「顔の見える関係づくり交流会」に作業療法士の参加を促すため事務局よりメールにて案内を配信する(甲府市在住でない会員も参加可能)

4. 山梨県リハビリテーション専門職団体協議会(磯野、長坂)
<災害対策準備委員会>
 - 1) 平成30年8月28日(火)HUG研修会実施

<地域支援事業等推進委員会>
1) 平成30年8月22日(水)介護予防アドバイザー研修会実施

一般社団法人山梨県作業療法士会会員手続きについて

入会について（会員の構成）

1. 正会員 一般社団法人日本作業療法士協会の正会員である者で、山梨県内に常勤または在住し、当法人の事業に賛同して入会した個人（作業療法士対象）
2. 賛助会員 当法人の目的に賛同し、事業を賛助するために入会した個人または団体
3. 名誉会員 当法人の事業に顕著な功労のあったもの又は学識経験者

※いずれも理事会での承認が必要となります。特に賛助会員に関しては、賛助内容を明確に提出して頂き、理事会にて検討させていただきます。詳細につきましては、一般社団法人山梨県作業療法士会定款「第二章 会員」をご覧ください。

会員手続きについて

各種申請書（入会申請書／登録変更届／休会・復会届／退会届）を当士会ホームページからダウンロードして頂き、事務局 管理部まで郵送またはFAXにてご連絡ください。特に、変更届については、変更があり次第ご連絡頂きますようお願いいたします。

連絡・送付先

一般社団法人山梨県作業療法士会 事務局 管理部
〒406-0014 山梨県笛吹市春日居町国府436

春日居サイバーナイフ・リハビリ病院 作業療法室内

TEL : 0553-26-4126

FAX : 0553-26-4366



 編集後記

- ・年齢を重ね 風邪を引きやすくなり 治りにくなりました。少し悲しいです。(精)
- ・今度初めて実習生を受け持つことに！不安もありますが自分自身も勉強と思い頑張ります。(三)
- ・たまに息子がファイティングポーズをとります。僕はその手にグータッチで返します。(浅)
- ・身のまわりの事柄がバタバタしている時、皆さんは、どの様にして、自分を保っているのでしょうか・・・(ふ)
- ・以前から好きだったバンドが甲府に来るといのでライブへ行きました。超至近距離で、大興奮でした。(い)
- ・第一子が生まれ、発達の授業を思い出す日々です。(な)

発行人：山本 伸一

編集人：中島雅人・飯野 知一・内藤 和也・藤原 浩宣・梶原 由加里・浅川 良太・精進 智規・稲葉 峻太・三森友樹

イラスト：いらすとや

発行所：一般社団法人 山梨県作業療法士会 広報局 企画編集部

竜王リハビリテーション病院 訪問リハビリテーション事業所 〒400-0114 山梨県甲斐市万才 287 TEL 055-276-1155

FAX 055-279-1262

印刷所：(株) 島田プロセス 〒409-3867 山梨県中巨摩郡昭和町清水新居 1534 TEL 055-233-8829